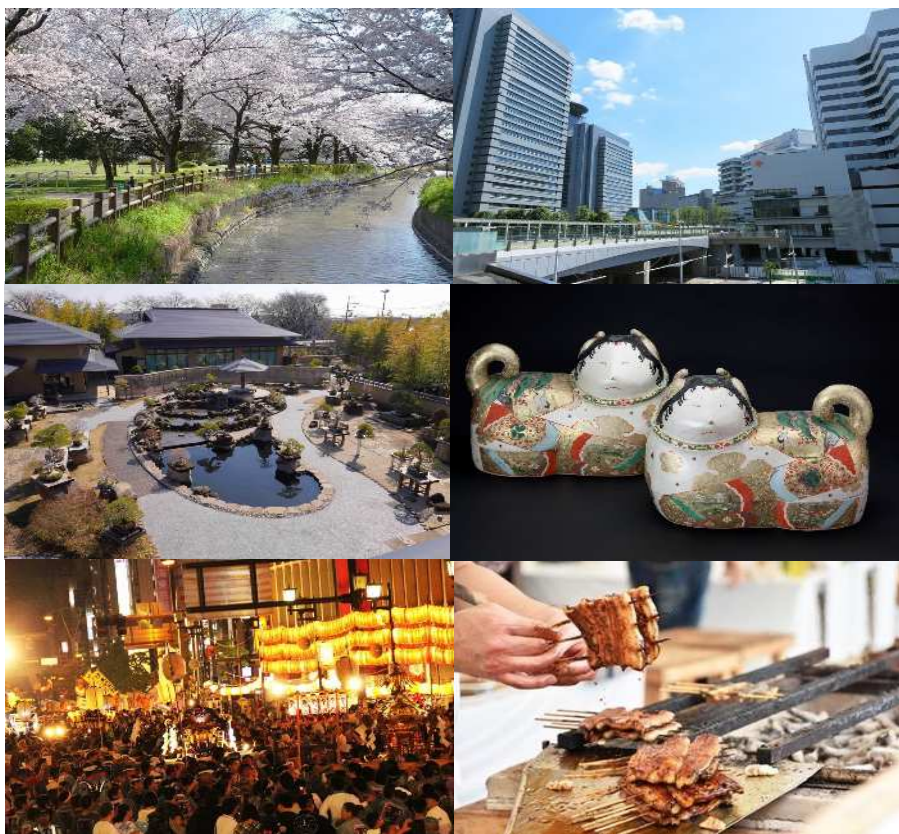


令和8年6月

さいたま市の**財政**

はじめに

市が提供するさまざまな行政サービスは、市民の皆様に納めていただいた税金や国・県からの支出金などによって賄われています。市では、それらがどのように使われているか、また、執行の状況はどうなっているかをお知らせするため、「さいたま市財政状況の公表に関する条例」に基づき、「さいたま市の財政」を毎年2回（6月、12月）公表しています。

今回は、令和8年度の当初予算の概要と令和7年度下半期の財政状況をお知らせします。

なお、本紙は、令和8年3月31日現在の状況を基に調製しています。この状況に出納整理期間※の変動を加えることで、決算として確定します。決算の概要については、12月に公表を予定しています。

※出納整理期間

3月31日までに確定した債権・債務に係る現金の未収・未払を整理するために設けられている期間（4月1日から5月31日まで）

もくじ

1	令和8年度当初予算の概要	1
2	令和7年度歳入歳出予算の執行状況	
	・一般会計	2
	・特別会計	3
3	令和7年度予算の使いみちと市税負担	4
4	財産、地方債及び一時借入金の現在高	4
5	企業会計の状況	5

1 令和8年度当初予算の概要

予算の特徴

誕生25周年を迎える本市が、市民の暮らしをこれまで以上に支え、高めていくとともに、行政と市民、事業者が更に絆を強め、叡智を結集して様々な課題に対応し、本市をより一層シンカさせていくため、新時代に向けた挑戦を具体化するための事業に予算を重点配分しています。

- ◆ 災害に強く安全・安心な都市への対策強化
- ◆ 未来のまちを拓くさいたま暮らしの深化
- ◆ 誰一人取り残さない地域共生社会の実現
- ◆ DXと共創によるまちづくりの推進

予算の総額

一般会計

福祉、教育、道路・公園の整備など、市の基本的なサービスを行う会計で、主に市税で賄われています。

福祉 教育 土木 など

当初予算額 (前年度)
7,160億円 (7,034億円)
 対前年比 1.8%増

特別会計

国民健康保険や介護保険のように、特定の収入を特定の支出に充てるため、一般会計と区別している事業の会計です。さいたま市には13の特別会計があります。

介護保険 国民健康保険 都市開発 など

当初予算額 (前年度)
3,461億円 (3,323億円)
 対前年比 4.1%増

企業会計

民間企業と同じように、基本的には事業収益で賄われている会計です。さいたま市には水道事業、病院事業、下水道事業の3つの企業会計があります。

水道事業 病院事業 下水道事業

当初予算額 (前年度)
1,379億円 (1,306億円)
 対前年比 5.6%増

全会計合計

当初予算額 (前年度)
1兆2,000億円 (1兆1,663億円)
 対前年比 2.9%増

さいたま市の予算を家計に置き換えると？

大きな金額の予算を身近に感じていただくため、令和8年度の一般会計当初予算7,160億円を、給与所得者の平均給与である477.5万円※（月収398,000円）の家計に置き換えてみると、下の表のようになります。

家計では、食費・生活費や医療費・保育料、借金の返済に対する支出が増えると、貯金や家の増改築に回せるお金が減ってしまいます。

市でも同様に、人件費や扶助費、公債費に対する支出が多いと、積立金や建設事業に使えるお金が減ります。

そこで、さいたま市では、健全な財政を維持するため、民間活力の導入、事業の選択と集中、ICTやデータを活用した行政サービス、DXの推進など、行財政改革に取り組んでいます。

※出典：令和6年分民間給与実態統計調査（国税庁）

さいたま市の家計簿（1か月当たり）

歳入		歳出	
給料・諸手当 (市税、地方交付税 など)	322,000円	食費・生活費 (人件費)	87,000円
駐車場貸付収入 (使用料及び手数料 など)	30,000円	医療費・保育料 (扶助費)	109,000円
預貯金の取崩しなど (繰入金)	16,000円	借金の返済 (公債費)	33,000円
銀行からの借入れ (市債)	30,000円	光熱水費、携帯電話料金など (物件費 など)	83,000円
		子どもへの仕送り (繰出金)	24,000円
		家の簡易修繕費 (維持補修費)	4,000円
		預貯金など (貸付金、積立金 など)	19,000円
		家の増改築費 (普通建設事業費)	39,000円
合計	398,000円	合計	398,000円

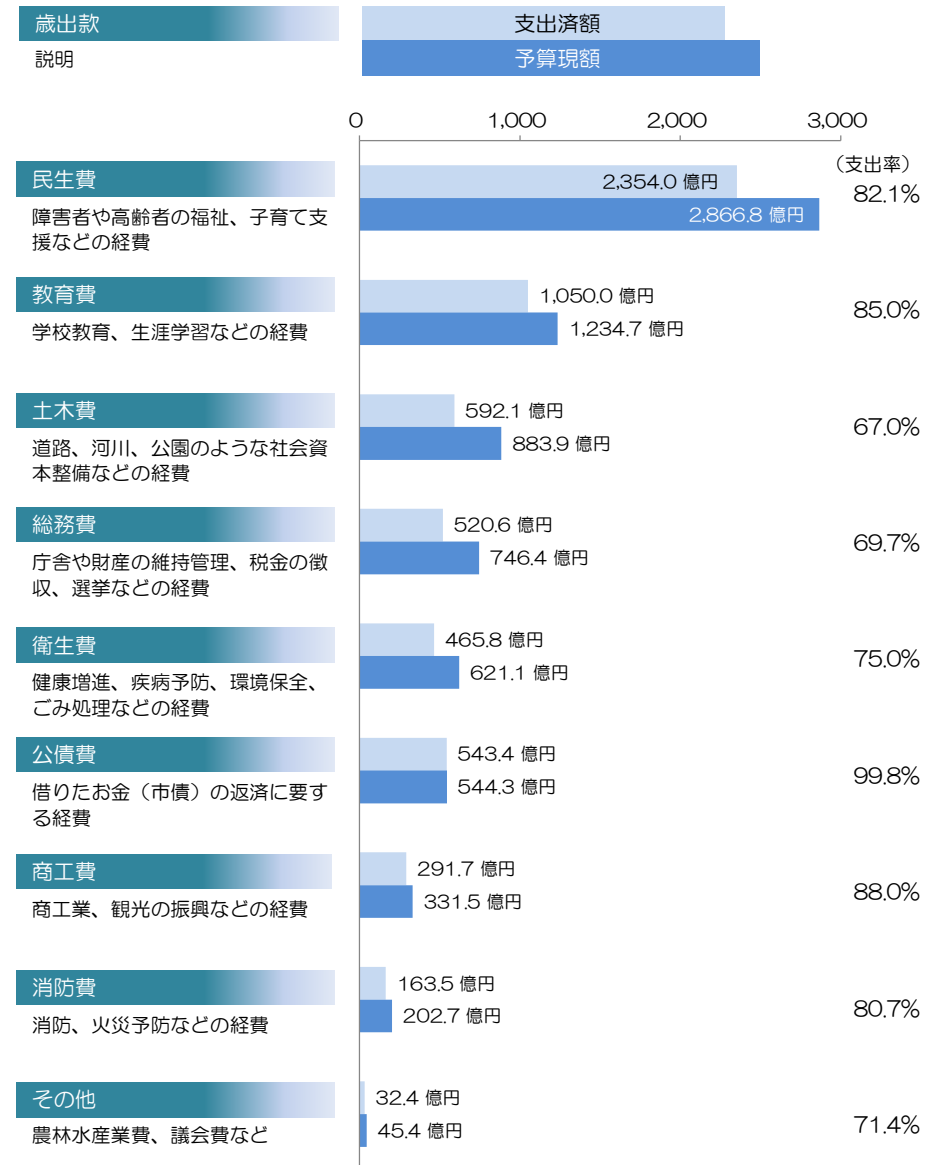
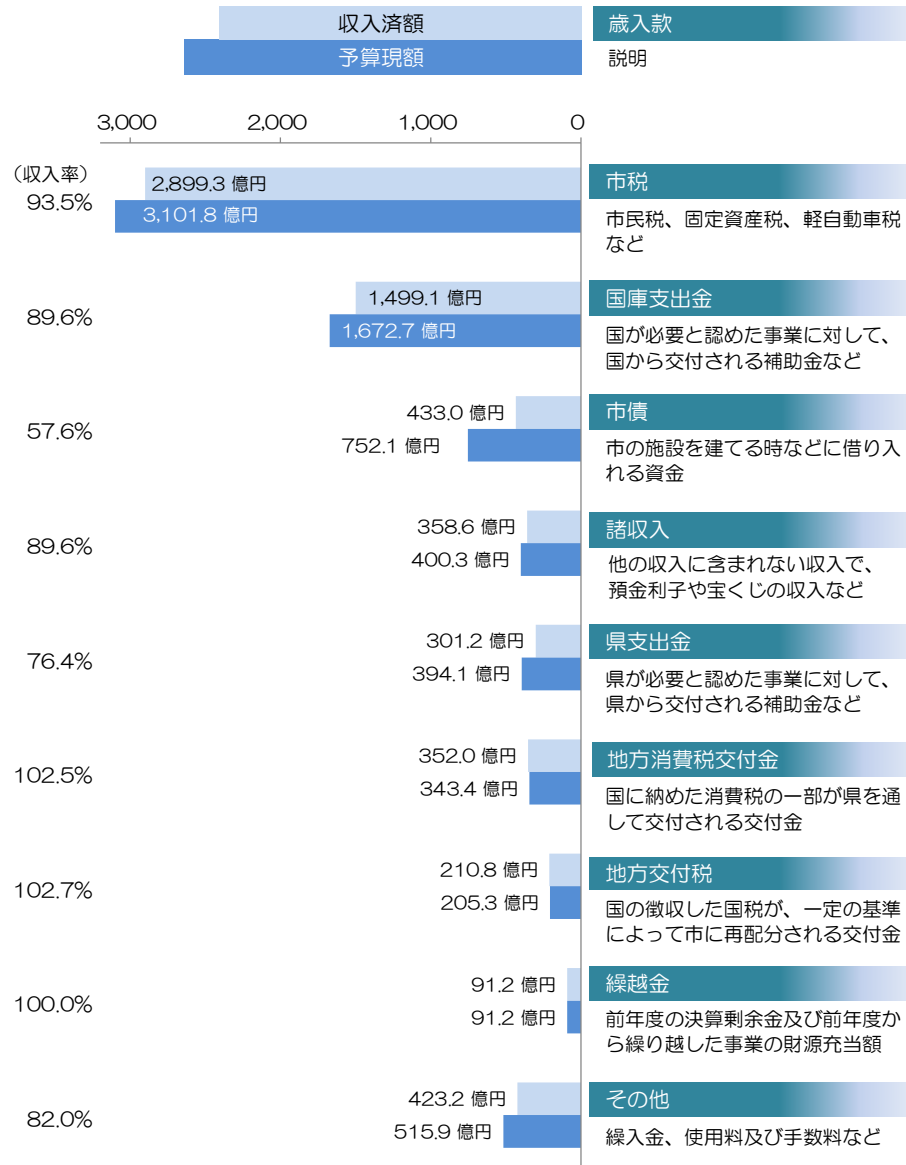
2 令和7年度歳入歳出予算の執行状況

一般会計

※予算現額は、当初予算額に補正予算額と前年度繰越額を加えた令和8年3月末の予算額を表します。
また、収入率・支出率は、百万円以下を四捨五入して算出しています。

歳入 $\frac{\text{収入済額 } 6,568\text{億}4,311\text{万円}}{\text{予算現額 } 7,476\text{億}9,152\text{万円}} = \text{収入率 } 87.8\%$

歳出 $\frac{\text{支出済額 } 6,013\text{億}6,955\text{万円}}{\text{予算現額 } 7,476\text{億}9,152\text{万円}} = \text{支出率 } 80.4\%$



特別会計

※予算現額は、当初予算額に補正予算額と前年度繰越額を加えた令和8年3月末の予算額を表します。
また、収入率・支出率は、百万円以下を四捨五入して算出しています。



3 令和7年度予算の使いみちと市税負担

※区分ごとに四捨五入しているため、各数値の合計と総額は一致しない場合があります。

市民一人当たりの予算の使いみち

1 民生費



211,018円

歳出予算（一般会計）を、
市民一人当たりで換算すると、

550,353 円

※市民一人当たりの歳出予算の額を、目的別で金額の多い順に並べています。
※令和8年4月1日現在の人口（1,358,566人）を基に算出（以下同様）。

<p>2 教育費</p>  <p>90,883円</p>	<p>3 土木費</p>  <p>65,063円</p>	<p>4 総務費</p>  <p>54,941円</p>	<p>5 衛生費</p>  <p>45,717円</p>
<p>6 公債費</p>  <p>40,066円</p>	<p>7 商工費</p>  <p>24,401円</p>	<p>8 消防費</p>  <p>14,923円</p>	<p>その他</p> <p>農林水産業費 議会費 労働費 予備費 災害復旧費</p> <p>3,341円</p>

市税負担の状況

市税を、市民一人当たりで換算すると、

228,317 円

市民税	130,053円	都市計画税	15,471円
固定資産税	71,709円	市たばこ税	5,988円
		事業所税	3,670円
		軽自動車税	1,423円
		その他	3円

4 財産、地方債及び一時借入金の現在高

財産の現在高

	土地	建物	基金
			
	3,233万㎡	271万㎡	1,021億円

■ その他の財産

区分	令和7年度末現在高
立木	7,274㎡
物権	27万㎡
無体財産権	18件
有価証券	128億円
出資による権利	19億円
物品	5,052点
債権	22億円

※物品については、取得価格が1点100万円以上の備品の年度末現在高のみ掲載対象としています。

※基金の現在高（内訳）

- ・財政調整基金：年度間の財源不均衡を調整するために設置される基金で、決算剰余金を積立て、必要に応じて取崩しを実施。 388 億円
- ・減債基金：地方債の償還を計画的に行うために設置される基金で、計画に応じて積立て・取崩しを実施。 269 億円
- ・その他特定の目的のために設置される基金：公共施設の老朽化対策など、事業の目的に応じて積立て・取崩しを実施。 364 億円

地方債の現在高

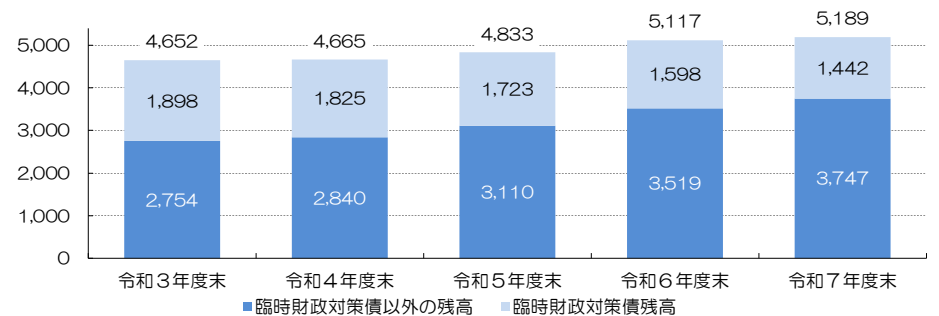
（単位：億円）

会計	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
一般会計	4,652	4,665	4,833	5,117	5,189
特別会計	71	73	66	57	51
企業会計	416	422	437	467	499
水道事業	319	312	293	279	266
病院事業	1,785	1,759	1,737	1,726	1,713
下水道事業	7,243	7,230	7,366	7,646	7,717
合計					

※区分ごとに四捨五入しているため、各数値の合計と総額は一致しない場合があります。

（参考）地方債の現在高の推移（一般会計）

（単位：億円）



一時借入金の現在高

令和7年度上半期に引き続き、令和7年度下半期における借入れはなく、令和7年度末の残高はありません（一時借入金は一会計年度内において歳計現金の不足を補うために行う金融機関からの借入れを指し、基金や会計間の繰替運用によるものは含みません。）。

5 企業会計の状況

水道事業

本市の人口は現在増加傾向にあります。将来的には減少に転じ、これに伴い給水人口や給水収益の減少が見込まれます。一方で、水道施設の老朽化は進行しており更新需要は今後さらに増加する見込みです。令和6年能登半島地震では長期断水が発生し、水道施設の強靱化の重要性が改めて認識されました。令和7年度に国が「第1次国土強靱化実施中期計画」を策定したことを踏まえ、本市においても耐震化対策を計画的に推進する必要があります。また、本市水源の約9割を占める埼玉県からの受水費が令和8年度から約21%引き上げられるほか、物価高騰による工事費の上昇もあり、財政状況は一層厳しさを増しています。このため、財政とバランスの取れた効率的かつ計画的な施設整備が喫緊の課題となっており、「さいたま市水道事業長期構想（2021-2030）」及び「中期経営計画（2026-2030）」に基づき、より効率的かつ効果的な事業運営を進める必要があります。

令和8年度当初予算の概要

当初予算額	52,535,221千円
(主な事業)	(単位：千円)
水道施設整備事業	13,004,590
水道施設の改良更新、耐震化等の整備を計画的に進めます。	
漏水調査事業	119,449
衛星画像をAIにより解析することで、漏水の疑いのある箇所を抽出し、漏水被害の未然防止を図ることを目的に効果的かつ経済的な漏水調査を実施します。	
国際協力推進事業	16,810
経験と技術を生かし、ラオス国水道分野への技術協力と国際人材の育成を推進します。	

令和7年度計理の概況

(単位：千円)	
科目	金額
資産	249,276,525
(1) 固定資産	226,719,997
(2) 流動資産	22,556,528
負債	85,041,730
(1) 固定負債	49,665,929
(2) 流動負債	10,067,496
(3) 繰延収益	25,308,305
資本	160,664,950
(1) 資本金	153,093,586
(2) 剰余金	7,571,364
収益	30,824,223
うち営業収益	29,336,034
費用	27,254,378
うち営業費用	26,643,431

(単位：千円)				
	収入		支出	
	執行額	収入率	執行額	執行率
収益的収支	33,728,309	100.7%	28,801,917	95.3%
資本的収支	7,184,990	66.0%	19,622,928	71.8%

事業の概況（令和7年度下半期）

項目	前年同期	当期	対前年度
給水件数	656,686	664,703	101.2%
給水量 (m ³)	67,824,140	68,150,760	100.5%
一日平均給水量 (m ³)	372,660	374,455	100.5%

病院事業

本市が運営する唯一の公立病院であるさいたま市立病院は、地域の基幹病院として、地域医療における中核的な役割を果たしています。

しかしながら、救急、周産期、感染症、災害等の不採算医療や特殊部門に係る医療の多くを担っている公立病院を取り巻く経営環境は厳しさを増しており、医療提供体制の維持が重要な課題となっています。

このような状況の下、さいたま市立病院では、引き続き市民が地域の中で必要な医療を受けることができる「地域完結型医療の要」として、安定した医療提供体制及び地域医療を守るため、経営改善の取組を進めながら、医療機能の充実と健全な経営基盤の確立を図る必要があります。

令和8年度当初予算の概要

当初予算額	34,947,082千円
(主な事業)	(単位：千円)
市立病院医療機器整備事業	417,800
CT装置、超音波内視鏡システム等の医療機器の調達を行います。	
医療総合情報システム再構築事業	2,930,853
老朽化した医療総合情報システムを再構築します。	

令和7年度計理の概況

(単位：千円)	
科目	金額
資産	33,937,171
(1) 固定資産	29,940,791
(2) 流動資産	3,996,380
負債	33,754,849
(1) 固定負債	28,853,331
(2) 流動負債	4,358,503
(3) 繰延収益	543,015
資本	2,122,419
(1) 資本金	9,378,558
(2) 剰余金	-7,256,139
収益	26,856,701
うち医業収益	22,341,884
費用	28,796,798
うち医業費用	27,429,082

(単位：千円)				
	収入		支出	
	執行額	収入率	執行額	執行率
収益的収支	26,913,392	100.3%	28,839,654	97.7%
資本的収支	959,077	99.0%	1,802,206	99.6%

事業の概況（令和7年度下半期）

項目	前年同期	当期	対前年度	
病床数	637	637	100.0%	
入院患者数	一般病床	91,089	89,851	98.6%
	結核・精神	3,939	4,229	107.4%
一日平均入院患者数	一般病床	500.5	493.7	98.6%
	結核・精神	21.6	23.2	107.4%
外来患者数	129,237	132,092	102.2%	
一日平均外来患者数	1,086.0	1,119.4	103.1%	

下水道事業

自然災害に備えつつ、下水道施設の老朽化による事故を未然に防止し、豊かな自然環境や快適な生活環境を創りつづけていくため、主な事業である下水道浸水対策事業、下水道施設老朽化対策事業、下水道汚水事業を推進していきます。

近年では、将来人口の減少、節水型機器の普及による水需要の減少に加え、全国的な物価高騰等により更なる経営改善を迫られているなど、下水道事業を取り巻く環境は厳しさを増しています。

こうした状況を踏まえ、令和8年3月に策定した「さいたま市下水道事業中期経営計画（計画期間 令和8年度から令和12年度まで）」に基づき、市民・企業に安定的・継続的に下水道サービスを提供するため、持続可能な下水道事業の運営に向けて、経営基盤の強化を行っていく必要があります。

令和8年度当初予算の概要

当初予算額	50,437,992千円
(主な事業)	(単位：千円)
下水道浸水対策事業	1,946,283
浸水被害の軽減を目的とした雨水管、雨水貯留施設等の整備を推進します。	
下水道施設老朽化対策事業	4,433,614
下水道施設の老朽化に伴い、予防保全の観点から計画的な改築を行うとともに、緊急輸送道路下などの重要な下水道管の耐震化を推進します。	
下水道汚水事業	2,315,691
合併処理浄化槽との役割分担により、事業効率が高い区域の汚水整備を推進します。	

令和7年度計理の概況

(単位：千円)	
科目	金額
資産	409,664,543
(1) 固定資産	400,996,148
(2) 流動資産	8,668,395
負債	269,693,040
(1) 固定負債	161,303,164
(2) 流動負債	13,920,741
(3) 繰延収益	94,469,135
資本	139,249,213
(1) 資本金	136,534,904
(2) 剰余金	2,714,309
収益	25,082,448
うち営業収益	21,734,399
費用	24,360,158
うち営業費用	22,267,387

(単位：千円)				
	収入		支出	
	執行額	収入率	執行額	執行率
収益的収支	26,796,486	100.4%	25,186,864	97.7%
資本的収支	10,775,745	62.0%	22,534,831	76.5%

事業の概況（令和7年度下半期）

項目	前年同期	当期	対前年度
汚水処理戸数	577,589	587,643	101.7%
汚水処理水量 (m ³)	72,376,295	68,972,505	95.3%
一日平均汚水処理水量 (m ³)	397,672	378,970	95.3%